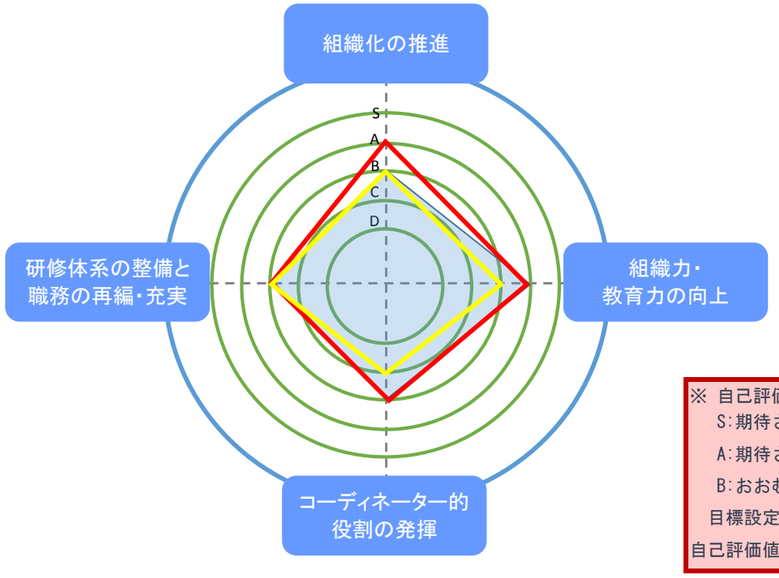
アクションプラン会員実行シート



Ⅰ　学校経営 グランドデザイン （重点目標）	○確かな学力と学習習慣を持つ生徒の育成 ○心豊かで思いやりのある生徒の育成 ○正しい判断力と強い意志を持つ生徒の育成 ○心・身ともに健康に努める生徒の育成
福島県公立小中学校事務研究会グランドデザイン （目指す姿）	○教育を推進する学校事務職員 ○教育関係機関との連携を図る学校事務職員 ○地域社会に貢献する学校事務職員

Ⅳ　目標（具体的課題解決のための目標）

学校徴収金の取り扱いについて、統一し徹底する

※ 自己評価…（Ⅵ　目標値設定　・Ⅸ　中間評価　・Ⅺ　期末評価）
S:期待される以上の能力が発揮できた　　C:能力が十分に発揮できず、時に職務に支障をきたした
A:期待される能力が発揮できた　　D:能力が発揮できず、頻繁に職務に支障をきたした
B:おおむね期待される能力が発揮できた
目標設定時において目標値を、評価時においては
自己評価値を線で結んでみましょう。（それぞれに

記入例の補足説明
手立てについては、会員ごとに経験年数（ステージ）にあったものを設定します。記入例においては、見易さを考えてステージⅠを黒色、Ⅱを青色、Ⅲを赤色で例示しています。工程表・評価についても同様です。
また、ステージごとに点線で区切りを入れています。

Ⅱ　実態（現状）の把握

- 教材費の集金において、担任が現金で保管している
- 教材の購入において、購入伺いが出されていない。
- 一部の教材費の支払いが遅延している。
- 会計に係わる内規が整備されていない

Ⅲ　課題とその

課題
校内での徴収金の取り扱いがバラバラである。

要因
教員の集金事務へ係わる時間が不足している。
教材や徴収金（公金）についての認識が不足している。

Ⅴ　目標達成のための手立て

学校事務の協同・連携・組織化の推進	専門的知識を活かし、学校の教育力・組織力の向	的役割の発揮	キャリア形成に向けた研修体系の整備と職務の再編・充実
① 連携グループ（他校）の実態（集金方法等）を調査収集する	② 「校内会計事務システム」を活用し、問題点の見直し、不足を補い、あわせて不祥事防止の徹底を図る	③ 業者・保護者との連絡調整はかる	④ 県・市の学校徴収金取扱いについて学ぶ
⑤ 内規作成にかかる資料の収集	⑥ 校内の集金の取扱い変更を周知する ⑦ 教職員（担任）からの意見を集約する ⑧ 内規の骨子を作成する ⑨ 「学校徴収金取扱規定」を作成する	⑩ 支払い・発注の窓口となり集金をとりまとめる	
⑬ 地域内で共有できるシステムを作成する	⑪ 年間での使用教材の見通しをたてる ⑭ 教育効果を高めるため改善策を手案する ⑮ 予算計画にかかわりをもつ		⑫ 教育課程から教材に係わりをもつ ⑯ 教育条件整備の情報収集や提案を行う

Ⅶ　工程表

1学期：4月　5月　6月　7月　／　2学期：8月　9月　10月　11月　12月　／　3学期：1月　2月　3月

- ① 情報収集 → ② 本校で問題となっていることについて、校内会計事務システムを活用し、改善を進める。
- ③ 関係機関との調整
- ④ 研修会や事務研の資料を活用し、学校徴収金の取り扱いについて学ぶ。
- ⑤ 資料の収集 → ⑧骨子作成 → ⑨ 規定の作成
- ⑥ ⑦
- ⑪ ⑫
- ⑩ 支払い・発注の窓口となり集金をとりまとめる。
- ⑭⑮
- ⑯ 教育過程編成に合わせ、教育条件整備の情報収集や提案
- ⑮
- ⑬ 日ごろの実践を基に、より良いシステムとなるよう不都合な部分については改善を進める。

Ⅷ　中間経過及び追加・変更事項等

4月　問題点の見直し
5月　同中学校区の学校から情報収集
　　集金の取扱いの変更を管理職と相談
6月　試行実施・意見集約
7月　担任の負担が軽減するよう集金方法を変更
8月　新たな集金方法での様式等の検討（システム化）

Ⅹ　評価及び次年度への課題

評価
Ⅰ　集金を一括管理することで，現金での保管がなくなった
Ⅱ　「学校徴収金取扱規定」を整理し，会計の流れを徹底させた
Ⅲ　会計システムを構築し，中学校区内の各学校で共有することができた

課題
Ⅰ　一時的な現金保管に対応するシステムの構築が必要である
Ⅱ　「学校徴収金取扱規定」の教育計画等への位置付けを確立する必要がある
Ⅲ　学校評価等から会計に係る課題を見つけ，解決策の提案の必要がある